

【聖書箇所 요약】

一人息子を失ったやもめの葬儀の行列に出会ったイエス様は、深い憐れみを覚え、棺に手をかけ、彼をよみがえらせ、母親の元に返されました。

1. 深い悲しみの現実

A. やもめと一人息子

- (1) 夫を亡くした未亡人（やもめ）が一人息子を育てていた
 - ・ たった一つの希望であった一人息子の命が絶たれる
- (2) 希望が持てない世界

B. 人間の中から出る答えとは

- (1) あきらめること
 - ・ 「仕方がない」「しょうがない」
- (2) 気持ちの切り替え



●いよいよ息子も大きくなり、老いてきた自分は彼の世話になってようやく苦勞から解放されるという矢先に、頼りとしていたひとり息子が死んでしまいます。この先どうやって生きていったらいいのか希望が持てない…。それがこの母親の前に現れた現実の姿でした。人生にはこのような時があります。大事にしていた希望が目の前であっけなく取り去られるのです。「しょうがない」という言葉を自分に言い聞かせるしかなかったこのやもめでしたが、自分の中から出てくる言葉とは全く異質の言葉を彼女は聞くこととなります。

2. 泣かないでいなさい

「主はこの婦人を見て深い同情を寄せられ、『泣かないでいなさい』と言われた。」（13節）

A. 苦しみを共に味わうキリスト

- (1) 深い愛を持って接するイエス・キリスト
 - ・ 「かわいそうに思い」（新改訳）
 - ・ 「憐れに思い」（新共同訳）
 - ・ 「腸^{はらわた}がちぎれる想いに駆られ」（岩波訳）
- (2) 失望と悲しみしか感じないやもめ
 - （例）インフルエンザで高熱を発する子ども

B. 全く別人格からの答え

- (1) もう泣く必要がない
 - ・ 泣いても無駄だということではない
- (2) 死に打ち勝ったキリストの言葉
- (3) 神からの語りかけ
 - ・ 自分の思い込みでない別人格からの言葉

3. 十字架と復活

A. 棺に手をかける

(1) 死は汚れを意味した

「すべて人の死体に触れる者は、七日のあいだ汚れる。」

(民数記 第19章11節)

(2) 死に支配されない方

B. キリストの復活の力

(1) 一人息子がよみがえる

(2) 復活の朝を信じて今日を生きる

●キリストの十字架と復活の意味が、この「やもめとそのひとり息子」の出来事にまとめられています。人間の死は罪の罰としての結果です。従って、この息子の行列を、墓(死)から方向転換されたイエス・キリストのみわざは、人間の汚れと罪をご自分のものとして引き受けて下さったことを表します。それは十字架上の死で具体的なものとなりました。また、罪の罰としての死を引き受けて下さったばかりでなく、復活によって死をも解決して下さったのです。



絶望のまっただ中で会って下さるお方。それがイエス・キリストです。十字架と復活を信じ、イエス様のいのちの行列に加えていただきましょう。

祈禱会説教

イエスに出会った人々シリーズ (その12)

泣かないでいなさい

- 11 そののち、間もなく、ナインという町へおいでになったが、弟子たちや大ぜいの群衆も一緒に行った。
- 12 町の門に近づかれると、ちょうど、あるやもめにとってひとりむすこであった者が死んだので、葬りに出すところであった。大ぜいの町の人たちが、その母につきそっていた。
- 13 主はこの婦人を見て深い同情を寄せられ、「泣かないでいなさい」と言われた。
- 14 そして近寄って棺に手をかけられると、かついでいる者たちが立ち止まったので、「若者よ、さあ、起きなさい」と言われた。
- 15 すると、死人が起き上がって物を言い出した。イエスは彼をその母にお渡しになった。
- 16 人々はみな恐れをいだき、「大預言者がわたしたちの間に現れた」、また、「神はその民を顧みてくださった」と言って、神をほめたたえた。
- 17 イエスについてのこの話は、ユダヤ全土およびその附近のいたる所にひろまった。

(ルカによる福音書 第7章11節～17節)



2017
10 / 18
説教
丸山 芳浩 師